

1本目

ユニバ代表0-2FC 東京

【得点】阿部吉朗

ケリー

<ユニバ代表メンバー>



2本目

ユニバ代表0-OFC 東京

【得点】なし

<ユニバ代表メンバー>



3本目

ユニバ代表1-1FC 東京

【得点】ユ]兵働昭弘

[東]練習生

<ユニバ代表メンバー>



中後は貫禄のプレーを連発した。中盤はこの中後を中心に構成されると見てほぼ間違いないだろう



<FC東京メンバー>

【一本目】

GK小沢英明

DF加地亮、茂庭照幸、ジャー

MF金沢浄、三浦文文、宮沢正史、石川直宏、ケリー

FWアマラオ、阿部吉朗

【二本目】

GK小沢英明

DF加地亮（15分・藤山竜仁）、茂庭照幸（15分・迫井深也）、ジャー

ジャー（15分・小峰隆幸）

MF金沢浄（15分・尾亦弘友希）、三浦文文（15分・戸田光洋）、

宮沢正史（15分・浅利悟）、石川直宏（15分・喜名哲裕）、ケリー

（15分・梶山陽平）

FWアマラオ（15分・福田健二）、阿部吉朗（15分・近藤祐介）

【三本目】

GK近藤健一

DF藤山竜仁、迫井深也、小峰隆幸（19分・前田和也）、尾亦弘友希

MF戸田光洋、浅利悟（19分・加賀見健介）、喜名哲裕（19分・大

谷圭志）、梶山陽平

FW福田健二（33分・練習生）、近藤祐介

◆今回の合宿に召集されたメンバー◆

ポジション	背番号/選手名	身長・体重	生年月日	所属大学(学年)
GK	塩田 仁史	185/77	81.5.28	流通経済大学(4年)
	橋田 聡司	183/78	81.12.20	同志社大学(4年)
	古田 泰士	187/80	82.6.10	大阪体育大学(3年)
DF	戸川 健太	180/75	81.6.23	明治大学(4年)
	中村 亮	185/73	81.8.13	鹿屋体育大学(4年)
	河端 和哉	174/70	81.10.22	札幌大学(4年)
	岩政 大樹	186/81	82.1.30	東京学芸大学(4年)
	深谷 友基	180/73	82.8.1	阪南大学(3年)
	長野 聡	184/76	82.8.2	福岡大学(3年)
	江添建次郎	181/73	82.6.10	桃山学院大学(3年)
	藤田 義明	180/72	83.1.12	順天堂大学(3年)
	阿部 翔平	170/67	83.12.1	筑波大学(2年)
MF	中後 雅喜	176/70	82.5.16	駒澤大学(3年)
	田中 信成	172/70	82.1.2	駒澤大学(4年)
	中田 洋介	173/61	81.9.15	駒澤大学(4年)
	木藤 健太	172/66	81.10.5	近畿大学(4年)
	兵働 昭弘	180/71	82.5.12	筑波大学(3年)
	堀 健人	175/68	82.6.13	順天堂大学(3年)
	保坂 一成	170/63	83.3.24	東京学芸大学(3年)
	蒲原 達也	170/64	83.7.8	国士館大学(2年)
FW	原 一樹	175/68	85.1.5	駒澤大学(1年)
	山崎 雅人	174/68	81.12.4	国士館大学(4年)
	田代 有三	180/74	83.7.27	福岡大学(3年)
	前田 雅文	172/64	83.1.25	関西大学(3年)

※戸川選手はケガのため辞退。代わりに日本文理大学の松園孝太(3年)が選ばれた



中田はその運動量で守備に奮闘した。このチームのキーマンとなりつつある



アマラオ(右)、ケリー、阿部吉のコンビネーションに苦しんだユニバーシアード代表



初召集の原はいくつか“らしい”プレーをみせたものの得点は奪えず

チームはようやく守備、攻撃の共通理解が進み、4月の日韓戦よりは形がつくれるようになった。しかし、7月のマンチェスター遠征が中止になるなどチーム作りは難航している。「初召集の選手はみんな能力が高く問題なかったと思います。しかし、連携面などチーム作りにはまだまだ時間がかかりそうです」(中田)。ユニバーシアードまで後2ヶ月。今回の試合は連覇を狙う、ユニバーシアード代表にとって収穫と不安が入り混じる試合となっ

つたとしてノーゴール。その後、FC東京はメンバーを総入れ換え。そうなるユニバーシアード代表が試合を支配し始める。中田が右サイドを切り裂くと中央でフリーの田代へ絶妙なパス。しかし、田代がうまくあわせれず得点チャンスを逃す。29分には原が登場したが駒大で見せているような活躍は出来ず、0-0で二本目を終了する。三本目は待望の得点が生まれ、試合もほとんどユニバーシアード代表が支配していた。しかし、終了間際にFC東京の練習生に同点弾を決められ1-1で三本目を終了。試合もこの時点で終了した。初選出の田中、原は揃って「全然ダメでした」と試合後語ったが、西田監督は「2人ともおもしろい存在」と及第点をつけた。一方、ユニバーシアード代表に定着しつつある中田、中後は堂々としたプレーでメンバーの生き残りに向けてアピールした。